

四月

ぱくきよんみ

その鳥の啼き声をきいたので

口のなかで苦い調べをまどろっこく舐めてみた

その鳥のすがたを花蔭にみたので

シダレザクラは色ときめき語りかけてやまない

その鳥のしぐさにおどろいたので

通い路のおもかげもくらりと揺らぎだす

息を吸う 吐きだす

(透きとおるみずいろの手紙をもらったまま)

息づかいで ものをはすかいいに見やる

(濃紺のペン文字は意志のかどもまあるくて)

息を含む 噛みくたく

(チョコレート菓子^の緑としば漬^の紫と湯呑み^の紅と)

それで 自転車のブレーキの音がする

それで まばたきもせずに ヒメジョオン

それで

春はもうすこしサクラという花びらを吐きだす

それで

それで曇り空でも日が差すという日

それでまた 偲ぶひとの声を耳の底にたどる

それで

四月

どこまで話したのだっけ

籠の鳥がいなくなりました

どこに行ったのだろうか

蛇がのこりました

それはそういうことですか

蛇の腹は白くふくれています

ああ、どうしよう、どうしようか

蛇の腹は白くふくれています

あれ見ちゃいけないよ

蛇の腹は白くふくれています

あの子に行くところはないだろうに

蛇の腹は白くふくれています

あの子は

あれつきり

あのまま行くところがなかった

それで

四月

まだ 春はサクラを吐きだしていますか

まだ 鳥は花びらをついばみに来ますか

まだ 川の水はぬるみませんか

まだ 忘れられないのですか

まだ ぼうだの涙を流せないのですか

まだ 母の母の母の母の、とつづきますか

それで

ひきだしをあけてみとめましたようか

ひきだしに蛇をしまいましたから

ひきだしもまじないにからんでまして

ひきだしの歳月はいままもって解きほぐせません

それで

どこまで

話したのだっけ

それでねえ

あの日から四月がめぐりくるたびに

こぎたない二本足になってしまった

あたしだ

籠にのこつてるだろうに

あれは ぬけがら

あの日から あたしだよ

そうだった

スズメノ

カタビラ

だった

首すじに川の水が

つーつと伝わってきて

重い頭をもたげられないのだ

それで

四月